

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名	子育て支援体制整備事業		担当部署	健康福祉部 子どもいきいき課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市子ども・子育て支援事業 計画	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	平成 ▼ 22 年度
政策(中項目)	2	子どもたちの笑顔と歓声が聞こえるまち なると			終期
(小項目)		児童福祉			
施策	2	児童福祉の推進			
基本事業	2	保育所の機能充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 公私立保育所の児童と保護者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	育児不安を抱える家庭や軽度の発達障がい疑われる乳幼児を、できるだけ早期に発見し、就学年齢までに、関係機関の連携により適切かつ継続的な支援を実施する。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	実施希望保育所のアンケート調査を行い、10ヶ所の保育所で巡回相談を実施。 保育所の現場で気になる子どもの状況を観察し、日々の保育中での具体的ななかかわり方について、エピソードを基に意思・臨床心理士の専門家から助言及び指導を受けることにより、確実に保育の質の向上に、また、希望する保護者への相談も行うことで、保護者支援にも繋げていく。 また、巡回相談を受けた保育所・保育士や対象児童・保護者への継続的な支援ができるように、健康政策課との連携を図りながら、今後も事業を継続していきたい。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		適切な支援を受けた人数	50	50	50	50	50	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	実施希望保育所のアンケート調査を行い、12ヶ所の保育所で巡回相談を実施。支援が必要と思われる子どもの保護者に対しては、個別に声をかける等、保護者相談も積極的に実施している。 また、子どものエピソードを基に、保育士が医師・臨床心理士などの専門家から指導を受けることにより、自分の保育を見直すきっかけとなっており、子どもの支援へと繋がっている。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 実施保育所・園の数	10	12	10	10	10	園
	2 観察をうけた児童数	510	514	500	500	500	人
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	適切な支援を受けた人数	72	73	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)		146.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	0	0	0	939	939
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	939	939
		決算額	0	0	0	0	833	833
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費
		0.2	0.0		1,427		2,260	

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	722	833	700	700	700
	うち一般財源	7	833	700	700	700
	人件費	1,615	1,427	1,427	1,427	1,427
	総事業費	2,337	2,260	2,127	2,127	2,127

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		専門家から具体的な関わり方についてアドバイスを受けることにより、保護者自身が子育てに積極的になる等の変化が見られ、現場の保育士にとっても、保育の質の向上に繋げることができた。
	効率性	A:効率的だった		保護者相談の件数が増えた事により、支援が必要と思われる乳幼児の発達相談や療育サービスに繋げることができた。
②成果に対する評価	指標名	適切な支援を受けた人数		保育の現場で気になる子どもの状況を観察し、保育所においての具体的な関わり方について、エピソードを基に、専門家である医師・臨床心理士から助言及び指導を受けることにより、保育士の資質が向上し、保護者相談の実施の結果、保護者への積極的な支援に繋がった。
	目標	50	人	
	実績	73	人	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		核家族化の進行や共働き家庭の増加により、子育てに悩みを抱く家庭は増加しており、臨床心理士等により専門的なアドバイスを受けることのできる機会の創出は必要である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	巡回相談の実施回数の増加を希望する保育施設もあるが、そうでない保育施設もあり、施設が希望しない場合はその施設を利用する保護者も相談事業を受けられないことから、「保育施設が支援が必要な児童と考えていないが悩みを抱えている保護者」に対するフォロー体制について検討する必要がある。 事業実施日の検討や医師・臨床心理士等専門家の人材確保や事業費の維持について、関係各課で協議を行う必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	医師・臨床心理士・保健師・保育士等が連携し、育児不安を抱える保護者や発達障がいが見られる乳幼児に対し、継続した支援の充実が図れるよう、さらなる事業内容の見直し、検討を行うとともに、関係機関との連携強化に努める。			
	H30年度	継続			